

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道185号 休山改良		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：広島県 呉市 本通六丁目 至：広島県 呉市 阿賀中央六丁目			延長	2.6km	
<p>事業概要</p> <p>一般国道185号は、広島県呉市から広島県三原市に至る延長約70kmの主要幹線道路である。 休山改良は、呉市の東西を連絡するバイパスであり交通渋滞の緩和や交通安全の確保等を目的とした延長2.6kmの道路である。</p>						
S61年度事業化		S61年度都市計画決定 (H-年度変更)		H1年度用地着手		H6年度工事着手
全体事業費	約450億円	事業進捗率	72%	供用済延長	2.6km	
計画交通量	46,700台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 3.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 102/624億円 事業費：95/605億円 維持管理費：7.5/19億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 391/1,934億円 走行時間短縮便益：350/1,517億円 走行経費減少便益：29/281億円 交通事故減少便益：11/137億円	基準年 平成27年		
<p>感度分析の結果</p> <p>(事業全体) 交通量：B/C=2.6~3.8 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.3~4.4 (交通量±10%) 事業費：B/C=3.1~3.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=3.5~4.2 (事業費±10%) 事業期間：B/C=3.1~3.1 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.7~4.0 (事業期間±20%)</p>						
<p>事業の効果等</p> <p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損失時間の削減が見込まれる ・現道における混雑時旅行速度が改善 ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する【広長浜呉駅線、天応川尻線、郷原黒瀬線ほか3路線】 ・呉市から東広島駅（新幹線駅）へのアクセスが向上 ・呉市から広島空港へのアクセスが向上 ・呉市役所から阿賀ICへのアクセス向上 ・広支所から呉ICへのアクセス向上 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東広島市から呉港（重要港湾）へのアクセスが向上 <p>③個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和ミュージアム（H26年間観光入込客数88万人）、グリーンピアせとうち（H26年間観光入込客数12万人）、呉市立美術館（H26年間観光入込客数7万人）など観光施設へのアクセス向上 <p>④安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三次医療施設へのアクセスが向上【呉市広支所～呉医療センター】 <p>⑤災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県緊急輸送道路ネットワーク計画（平成25年6月）において緊急輸送道路に位置づけ有り <p>⑥地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる 						

関係する地方公共団体等の意見

休山改良は、国道185号の交通混雑の解消並びに呉周辺地域の東西連携の強化、圏域の一体的な発展に大きな役割を果たすことが期待されており、呉市、竹原市、江田島市、熊野町の首長で構成される「休山新道建設促進期成同盟会」から早期整備要望を受けている。(平成27年7月)

広島県知事の意見

継続とする対応方針については妥当である。

休山新道は、平成14年3月に暫定2車線開通して以降、朝夕には慢性的な渋滞が発生しています。また、平成27年3月には東広島・呉自動車道の全線開通により、山陽自動車道や広島呉道路と一体となって、広島・呉・東広島を結ぶ広域ネットワークが形成されており、地域産業の発展や都市間の連携を強化するうえで、休山新道の早期4車化を図っていく必要があると考えております。

したがって、引き続きコスト縮減に努めていただくとともに、公表されている平成29年度の全線完成に向け、確実に整備を進めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針(原案)について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

呉市は呉越峠を挟んで呉地区と広・仁方地区に市街地・生産拠点が存在することから、呉越峠における交通混雑が大きな課題となっていた。

平成13年度に暫定2車線で開通したことで、旧国道185号(呉越峠)の渋滞は解消したものの、休山改良の周辺では開発や東広島・呉自動車道の全線開通などの状況の変化により、交通量の増加による混雑が発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成27年3月末で用地買収は約100%完了している。
- ・平成27年3月末で事業進捗は約72%完了している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成29年度：全線4車線開通予定

施設の構造や工法の変更等

今後の実施にあたっては、コスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

対応方針(原案)

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。